



たまり場を体験しました

「手話ができる」と聴覚障害がある方も、より細かなコミュニケーションがとれるようになる」と感じました。

B たまり場ではパッチワーク教室を、C たまり場では手芸教室をされています。「ここに来る」として、人と話す機会を作れるから楽しい」と話され、ボランティアに参加するなど、「社会との関わりを持つことで、元気で過ごすことができます」と感じました。

学生は、「楽しかった」と笑顔で参加し、地域で暮らす方たちと出会い、健康の大切さを考えるきっかけになりました。これらの学びを、相手を理解する時に活かしてほしいです。

このたび、お世話になった友の会の方々、同人社団の方々、ありがとうございます。

(泉州看護専門学校 教員 大久保 倫世)

実習を通して

生きるを支える地域・在宅看護Ⅰ

社会との関わりを持つことで、元気で過ごせるように

泉州看護専門学校1回生は「生きるを支える地域・在宅看護Ⅰ」の講義の一環で、次の4点を目的として友の会活動の場で実習をしました。学生の学びや体験を紹介します。

- (1) 地域に暮らす人々は、看護の土台にあると認識し、その地域について学ぶ
- (2) 地域の特性を理解し、看護の対象として学ぶ
- (3) 社会の仕組みや、地域での健康な暮らしを支えるために必要な構成要素を学ぶ
- (4) 友の会活動を通し、地域で暮らす人々の「生きるを支える」という看護の基本となるものを学ぶ

まず、篠原組織部長から、健康友の会みはらが発足した歴史や活動内容について説明を聞きました。耳原総合病院の「応援団」というだけでなく、「地域の健康を守る主体的な担い手になること」を位置づけていることが、印象的でした。



その後、たまり場を訪れました。A たまり場では手話サークルの方に、学生の名前とあいさつの手話を教えていただきました。「手話ができる」と聴覚障害がある方も、より細かなコミュニケーションがとれるようになる」と感じました。

「様々な年齢層とつながりたい」と考えていることや、学生など、若者に対して「可能な範囲で地域のイベントなどのボランティアに参加してほしい」と考えている」と教えていただきました。たまり場は、一人でいる寂しさがなくなり、いろいろな人とコミュニケーションをとれる場所になっていました。

「旧優生保護法下における強制不妊手術問題に対する見解」から

人権と倫理に関する学習をふかめよう ②

新憲法下でも人権より「公益」、当時は合法だったと政府は正当化してきました。

「国民の自由及び権利には責任及び義務が伴う。公益及び公の秩序に反してはならない」——自民党憲法草案の一部です。ここでの「公益、秩序」は、政権のためのもので、旧優生保護法も同じ発想であり、人権を最高位とする現憲法の規定とは真逆です。

こんな法律が国民に浸透したのは当時、政府が予算をつけて都道府県間で競争させ、民生委員、児童相談所、社会福祉協議会を巻き込み、学校教育するなどしたからです。

その結果、一人の人間の生命継続を断ち、「障害者は不良な子孫、厄介な者」と規定し、他の法律にも、障害者を排除する条文が入る根拠になってしまいました。

しかし障害者と家族、支援者、そして女性団体などが継続的に訴えてきました。

(社会医療法人 同仁会 副理事長 斉藤 和則)

「新憲法下でも人権より「公益」、当時は合法だったと政府は正当化してきました。990年代の障害者基本法制定、国連国際人口開発会議、らい予防法廃止などに結びつき、政府は旧優生保護法を廃止、母体保護法に改定せざるを得ませんでした。

旧優生保護法で強制不妊手術の被害にあった方は、2万5000人にのぼります。日本の裁判所には、憲法に抵触する法律を審査する権限がありませんが、裁判官は何もしませんでした。ある大学の憲法学者は、「そもそも違憲であったが、我々の目が曇っていた」と記しています。政府、厚労省、国会、医療界とともに、法曹に関わる人たちにも長年放置してきた責任があるのです。

ウクライナ支援カンパへの協力

ありがとうございます



2021年2月24日に始まった、ロシア軍によるウクライナ全土への軍事侵攻は、1年が経過した現在でも解決の糸口さえ見えない状況が続いています。

ウクライナの1月の平均気温はマイナス6℃と、1年で最も寒い季節を迎えています。ロシア軍による発電、送電などのライフラインの攻撃により、直接攻撃のみならず、住民の生命が脅かされている状態が続いています。

同仁会でも昨年4月よりバッチなどのグッズを作成し、支援カンパに取り組み、2023年2月末時点で86万7054円のご支援が寄せられていました。今回の取り組みは2月末で締め切り、国連UNHCR協会に振込いたしました。

ご協力、ありがとうございます。

2023年3月1日 同仁会社保平和委員会